

# 地本業務ニュース

## JR 東海 労・静岡 地方本部

NO. 3 2017年 9月30日 発行者：JR東海労静岡地方本部 植松昌彦

### 「触車事故・待避不良の根絶に向けた取り組みの展開について」業務委員会開催 社員管理の監視カメラであってはならない！

9月26日地本は、「触車事故・待避不良の根絶に向けた取り組みの展開について」業務委員会開催しました。はじめに、会社から説明があり疑問点について議論をしました。

その内容は、静岡支社管内において、線路内で作業に従事する者の身体・生命に関わる重大な結果をもたらす恐れのある触車事故・待避不良の根絶に向け、列車見張員・線路内立入責任者のヘルメットにカメラを装備して、作業の様子を撮影し、必要な指導・推奨・教育等を行う取り組みを実施するというものです。会社は、「箇所を限定して試行してきたところであるが、試行が順調に進み、本格導入の目途がたったことから、取り組みを工務関係の全ての現業区へ展開する。」と説明しました。

以下その内容と主な議論です。

#### 1. 施策の概要

- (1) 列車見張員のヘルメットにカメラを装備し、作業の様子を記録する。
- (2) 対象は、在来線工務関係作業において列車見張体制を必要とする作業とする。
- (3) 撮影データは、触車事故・待避不良等発生時の状況確認を行う場合、社員の指導・推奨に勝つ揺る場合、教育資料として勝つ揺る場合には使用する。
- (4) 工務関係の全ての現業区で実施する。

#### 2. 実施時期

平成29年10月1日以降準備でき次第

組合：カメラの数はどの位用意するのか

会社：100台用意している。

各現場に2台ずつ配備する。

残りは予備とする。

組合：見張は、運転士側から見張員が見やすい位置にして欲しい。

会社：意見は聞く。今回は、見張員の側から列車の接近を確認し、蝕車事故防止や待避不良防止のカメラを使うものである。

組合：電源を入れている時期は？

会社：ホーム外れ等の現地で打ち合わせが終わった後電源を入れる、休憩時間は電源を切とする。電源の「入」「切」は、標準を作って決めている。ホームでお客様を撮らないように下を向ける等配慮していく。

組合：管理者が、社員を好き嫌いで評価するために使うのではないか。

会社：社員の評価には使わない。

評価には使わないが、推奨に使う予定、良いところは、見本にする。

組合：データはどうしておくのか？

会社：データは保管して、4週間で消去する。

組合：音声も入るのか。

会社：音声も入る。

組合：データの蓄積の容量はどのくらいか。長時間撮り続けることができるのか。

会社：SDカードで撮るので2～3回分は撮ることができる。

組合：撮影データは、膨大な量となる。全部を見るのか。

会社：全部を見なくても早送りして大切な場面を見る。

組合：列車の見張りは長い時間同じ方向を見ていることとなる。疲れて首を回すこともある。首を回したことで指導をするのか。

会社：首を回すことで指導することはない。列車の接近の前に「1分前」と歓呼するのでそれ以降、他を見てははまずい。

組合：カメラを付けることにより、管理されていると感じて一方向だけに気を取られ、周りの危険を見落とし安全がおろそかにならないか。

会社：そうであってはならない。準備期間に試行して十分出来ると社員が言っている。

組合：10月1日から全ての現業区で標準は徹底出来るのか。

会社：27日に現場長を呼んで徹底する。全ての現業区で、一斉に準備が出来ないため実施はしばらくかかる。10月1日以降準備ができ次第実施する。

組合：社員管理の監視カメラにならないようにすること。

以 上